

## 『先輩たちの言葉』

あるOB会の席上、先輩たちから素敵な話を聞きました。

「私は70歳の手習いで、古文書の勉強を始めました。毎日何時間か古文書のテキストや本物の江戸時代の文書とにらめっこしています。おかげか古文書検定の一級をとり、古文書師範をめざしています。毎日が勉強」

「救急救命の国際ライセンスにチャレンジしています。次の大きなスポーツイベントの時にお手伝いできればと思っています。70歳を過ぎましたが、体力が衰えないように頑張っています」

「子どもの頃工作が大好きだったことを思い出し、還暦を過ぎてから、子どもたちのおもちゃの修理の事業を手伝い始めました。おもちゃが動き始めると子どもと一緒に歓声をあげて喜んでいます」

なんと前向きな先輩たちでしょうか。生涯学び続ける姿勢が何よりも大切だと思います。先輩たちのようなポジティブな人生を送りたいものです。

六月議会が終わりました。白熱した議論が続く中、津島の教育の今後について自問自答していました。私は何をめざし、何に向かって教育を進めているのかを考えていました。

「津島を愛する子ども、郷土愛をもっている子どもたちを育てたい」

「新しいテーマにチャレンジする前向きな子どもたちを育てたい」

「自分の命を大切にし、他人の命も尊重する子どもたちでありたい」

「柔軟な心、やわらかな対応ができる子どもたちであってほしい」

原点に戻り、教育の理念や方向をしっかりと考え、子どもたちや保護者、そして教職員に語っていきたいと思います。

これから夏に向けて多くの方たちから意見を聴こうと思っています。まずは校長・教頭先生から、次に学校運営協議会の会長さんからヒアリングをしたいと思います。みなさんの思いをまずは聴くことから…。

津島市教育委員会の動きが次の雑誌で取り上げられました。

「T P P (津島プログラミングプロジェクト) スタート ―全国最大規模のロボットによるプログラミング学習―」『たのしい学校 令和5年度 春号 大日本図書』

「領事館プロジェクトーキラリと光る津島の教育―」『階 第49号 帝国書院』

白熱の議論は続き泥鯱鍋  
神苑の泥濘を行く夏祓

令和5年7月5日  
津島市教育委員会  
教育長 浅井厚視